

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

●東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

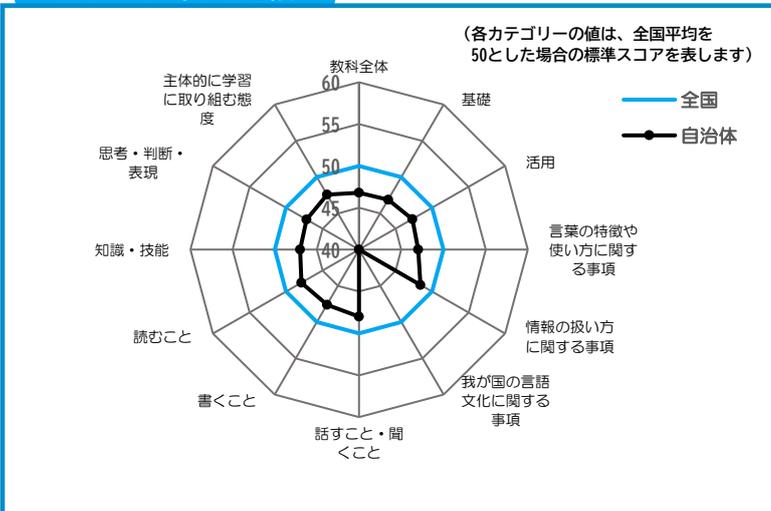
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		62.2	55.5	
基礎		66.2	58.6	
活用		53.8	49.0	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	60.7	
	情報の扱い方に関する事項	55.0	52.9	
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	55.0	48.3	
観点別	書くこと	56.7	49.0	
	読むこと	58.3	52.6	
	知識・技能	66.3	59.4	
	思考・判断・表現	57.0	50.3	
	主体的に学習に取り組む態度	57.0	50.0	

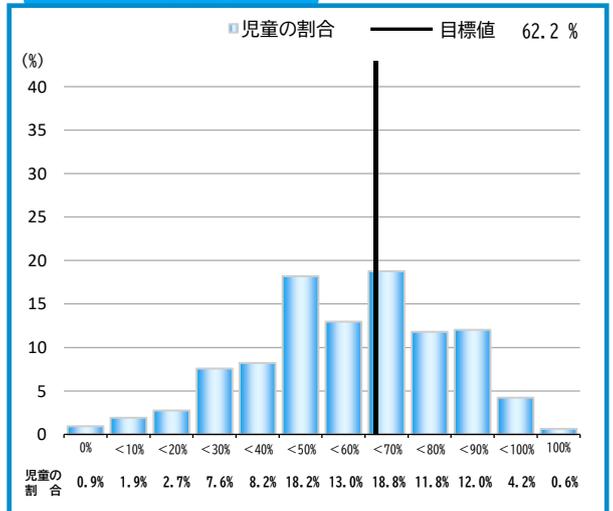
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が55.5%
- で、目標値を6.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が50.0%で、目標
- 値を7.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書いている。

目標値 65.0% 正答率 48.4% 差 ▲ 16.6 ポイント

指導のポイント

問題で定められた6行から8行の間で文章を書くことができるかを見る問題である。日頃から、200字程度の長さで、自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、中心を捉えた文章を書くことができるようになる。継続的に取り組んでも、児童にも教師にも負担のない分量であるので、学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面で書く経験を積ませていきたい。

言葉の学習

大問3(2)

<ねらい> 様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。

目標値 40.0% 正答率 24.9% 差 ▲ 15.1 ポイント

指導のポイント

様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしていくことは、物語や小説などを読む際に、登場人物の言動を理解するのに役立つだけでなく、文章を書く際にも活用できるものとなる。授業の中でも、短文作り、辞書の活用、クイズとしての出題など、学習を工夫することが大事である。本問では、日常でもよく使われる言葉の使い方が出題されているので、解答しやすいであろう。正答を確認するだけでなく、誤答の選択肢についても、文の意味からはどのような言葉が適切なのかを考えさせるとよい。

小3 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

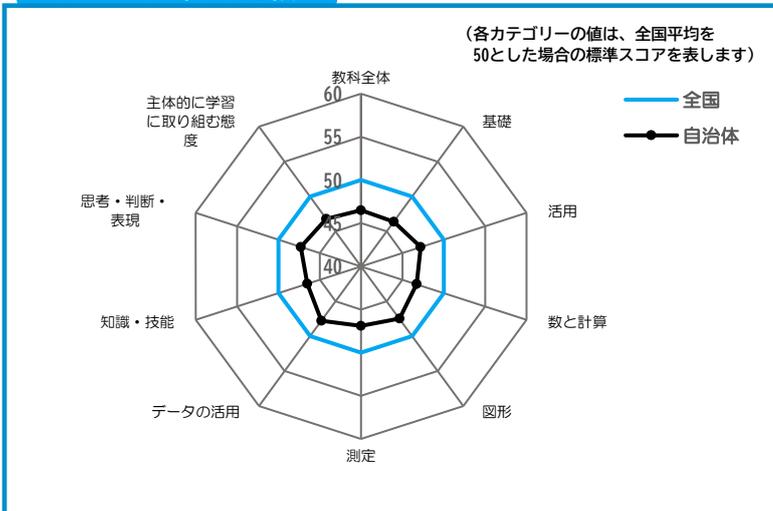
正答率一覧

		目標値	自治体	(%)
教科全体		70.3	62.8	◆
基礎		74.8	67.6	◆
活用		59.4	50.9	◆
領域別	数と計算	67.9	60.3	◆
	図形	78.3	72.8	◆
	測定	77.5	67.3	◆
	データの活用	70.0	63.4	◆
観点別	知識・技能	75.2	68.0	◆
	思考・判断・表現	56.3	47.8	◆
	主体的に学習に取り組む態度	65.4	56.1	◆

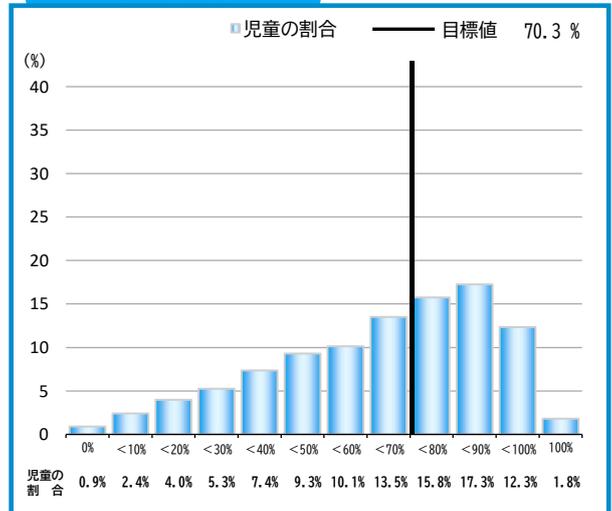
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が62.8%
- で、目標値を7.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的
- に学習に取り組む態度」が56.1%で、目標
- 値を9.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問17(2)

長さ

大問15(1)

<ねらい> 文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。

<ねらい> 道のりの意味を理解している。

目標値 50.0% 正答率 29.8% 差 ▲ 20.2 ポイント

目標値 70.0% 正答率 53.9% 差 ▲ 16.1 ポイント

指導のポイント 文章問題では、問題場面から演算を判断し、立式し計算して答えを求めるといった流れで解いていくが、機械的にその作業をするのではなく、計算して得られた数値を吟味することが大切である。本問の場合、 $23 \div 5 = 4$ 余り 3 となるが、4 は植木ばちの個数で 3 はヒヤシンスの球根の個数である。余りのある除法では、商と余りの意味が違うことがあることを理解させたい。また、そこから再び問題場面に戻り、余ったヒヤシンスの球根はどうすればよいかを判断することになる。答えを求めただけではなく、なぜその答えにしたのか、理由を説明させる活動を取り入れるとよい。

指導のポイント 道のりは道に沿って測った長さ、距離はまっすぐに測った長さであることを理解させたい。教科書の地図だけでなく、学区の地図などを用いて道のりを求める練習を積んだり、学校の周りを歩いたりして、道のりと距離の違いを実感できるようにする活動が大切である。また、日頃から、用語を正しく使うように指導することも重要である。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

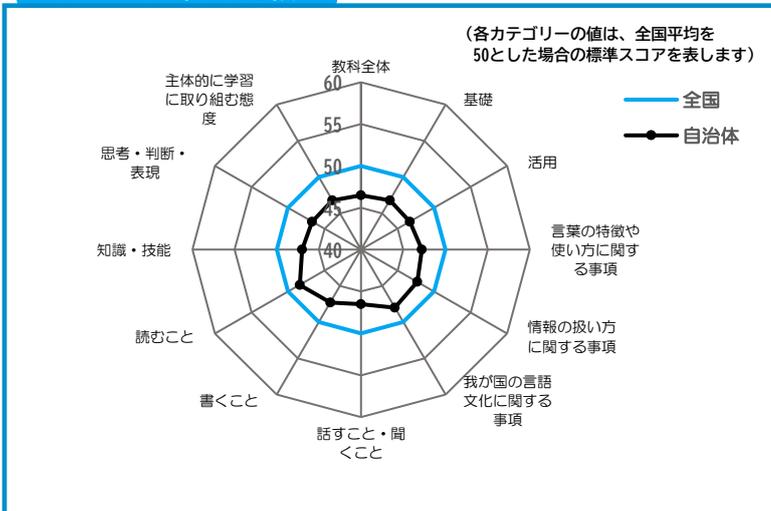
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.7	63.2	
基礎		69.4	66.8	
活用		61.7	56.3	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	66.5	
	情報の扱い方に関する事項	50.0	38.4	
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	80.3	
	話すこと・聞くこと	62.0	58.3	
	書くこと	67.5	56.3	
観点別	読むこと	62.5	60.5	
	知識・技能	67.3	63.2	
	思考・判断・表現	63.7	58.7	
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	55.0	

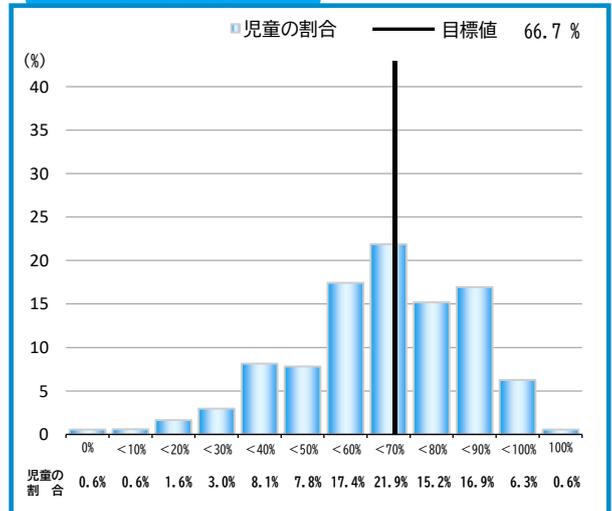
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が63.2%
- で、目標値を3.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が55.0%で、目標値を8.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

調べて分かったことを発表する

大問6(2)

<ねらい>

情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。

目標値 40.0% 正答率 14.6% 差 ▲ 25.4 ポイント

指導のポイント

本問の場合、【調べて分かったこと】から、冬至の時期にかぼちゃを食べる理由として活用できる情報は、箇条書きで挙げられているうちの二つに、すぐに絞ることができる。あとは、空欄に合うように、二つの情報を一つにまとめて書けばよい。ここでは情報を関係付けていくことはそれ程難しくはないが、段階的に、まずどのような情報が必要なのかを検査し、次に別のテキストの情報と関連させて考えなければならない場合もある。授業の中でも、情報を関係付けるために、考えるプロセスを必要とする課題を設定していきたい。

説明文の内よを読み取る

大問5(3)

<ねらい>

中心となる語や文を見つけて要約している。

目標値 40.0% 正答率 22.3% 差 ▲ 17.7 ポイント

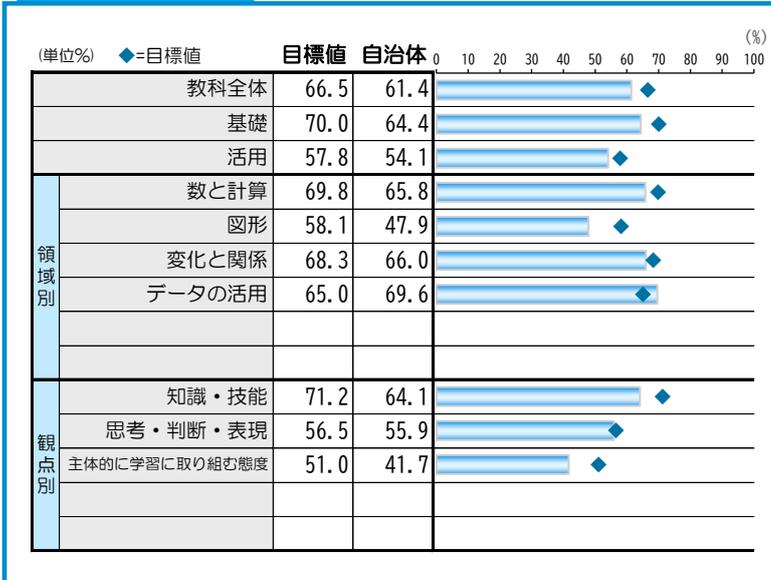
指導のポイント

本問では、まず文章の構成を理解しながら読む。次に、「まとめ」にある「足のふらつき」と「やわらかい感じ」の原因を押しさえればよい。そうすると、「足のふらつき」については、第3段落に述べられている。また、「やわらかい感じ」については、第4段落の「『今歩いている地面はやわらかい』と誤解する」ことであると考えられる。しかし、10字以内という条件や、「足がふらついているのに」という言葉に続けることから、第6段落の「自分は元気だ」という言葉が該当することが分かる。読むことの問題で大事なことは、文章全体を対象として取り組むということである。

小4 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

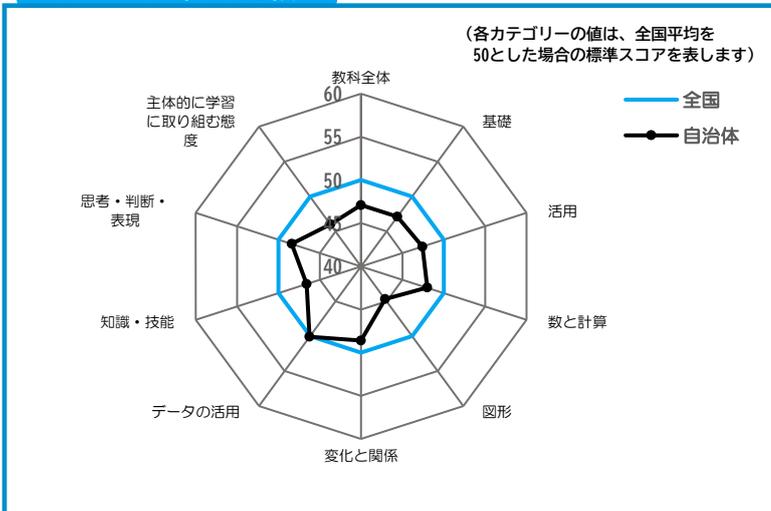
正答率一覧



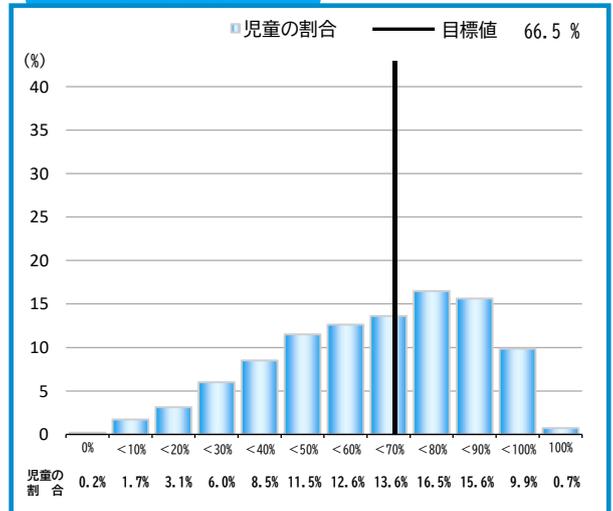
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が61.4%
- で、目標値を5.1ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が41.7%で、目標
- 値を9.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

垂直・平行と四角形

大問14(1)

<ねらい> 平行四辺形の作図ができる。

目標値 60.0% 正答率 32.5% 差 ▲ 27.5 ポイント

指導のポイント 平行四辺形は、1組の三角定規と分度器で作図する方法と、コンパスとものさしで作図する方法がある。前者は、平行四辺形が向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であることを踏まえた作図方法で、後者は、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことを踏まえた作図方法である。このように、平行四辺形の意味や性質の何を利用するかで、作図の方法は何通りもある。どの性質を利用して作図しようとしているのか、根拠をもって作図できるようにすることが大切である。

億と兆・がい数の表し方

大問1(1)

<ねらい> 命数法で書かれた数の記数法での表し方を理解している。

目標値 80.0% 正答率 65.5% 差 ▲ 14.5 ポイント

指導のポイント 日本の命数法は一、十、百、千の4つがまとまりになっており、この後は万、億、兆と続くことから、4けたで1区切りの構造になっている。このことから、大きな数を十進位取り記数法で表した場合、4けたごとにカンマなどで区切ると読みやすくなる。例えば、40651070000のままでは、位を順番に数えないと読めないが、4065, 1070, 0000のように4けた区切りにすると、そのまま4065億1070万0000と読みやすくなる。なお、英語圏ではone, ten, hundredの3つがまとまりになっており、3けたで1区切りの構造になっていることに触れておくのもよい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

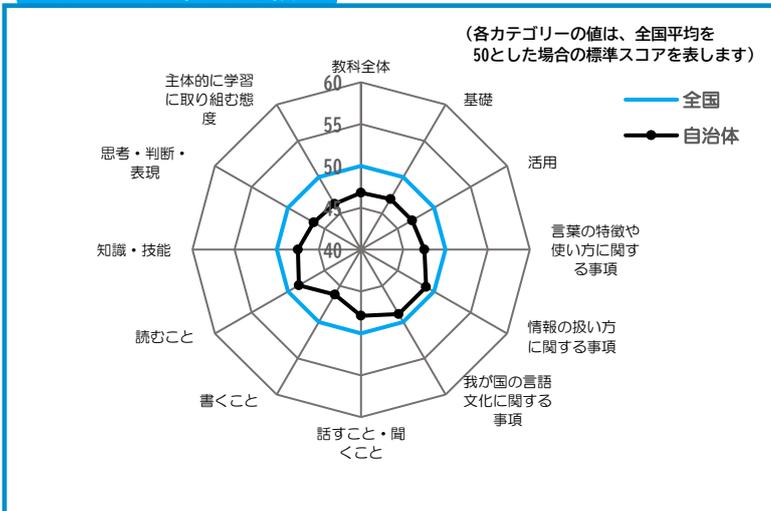
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		66.2	65.6	
基礎		71.9	71.5	
活用		53.1	52.4	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.5	69.0	
	情報の扱い方に関する事項	40.0	57.5	
	我が国の言語文化に関する事項	55.0	59.2	
	話すこと・聞くこと	66.7	73.5	
	書くこと	63.3	57.0	
観点別	読むこと	65.0	62.6	
	知識・技能	66.2	67.4	
	思考・判断・表現	64.7	62.5	
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	54.2	

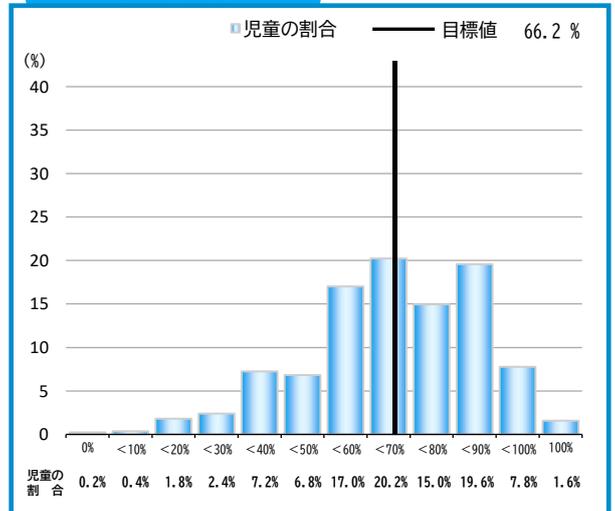
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が65.6%
- で、目標値を0.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」
- が67.4%で、目標値を1.2ポイント上回った。
- 一方、「主体的に学習に取り組む態度」
- が54.2%で、目標値を3.8ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文章を書く

大問7

<ねらい>

段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

目標値 70.0% 正答率 50.1% 差 ▲ 19.9 ポイント

指導のポイント

文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に「資料から読み取ったこと」を書くこと、第二段落に「一つ目の段落に書いたことをもとに、今後どのようなことに気をつけていきたいか、自分の考え」を具体的に書くことが求められている。作文に当たっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書く力を養わせていきたい。

物語の内容を読み取る

大問4(3)

<ねらい>

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

目標値 45.0% 正答率 35.6% 差 ▲ 9.4 ポイント

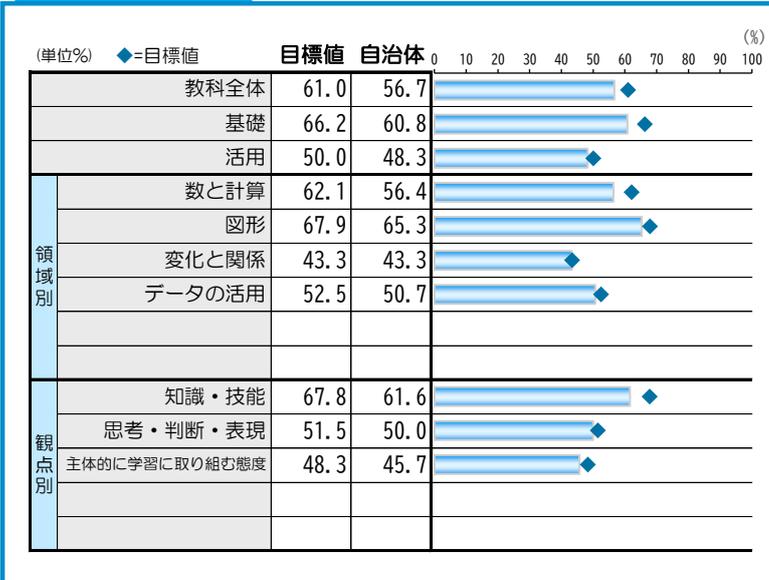
指導のポイント

二人の話し合いの根拠となっている表現について考える問題である。二人とも「なつな」の行動に着目している点を押さえる必要がある。まず、「中村さん」の一番目の話から、「太一」がボートを離れるきっかけとなった、「なつな」の行動の「ウ」を押さえる。次に、「山本さん」の二番目の話から、「太一」が水中の生物に目を奪われるきっかけとなった、「なつな」の行動の「イ」を押さえる。「なつな」のことを「人魚」と比喩的に表現していることにも注意する。話し合いでは、話題が前後することもあるので、何について話しているのかを常に意識しておきたい。

小5 算数

「知識・技能」の定着に課題が残る

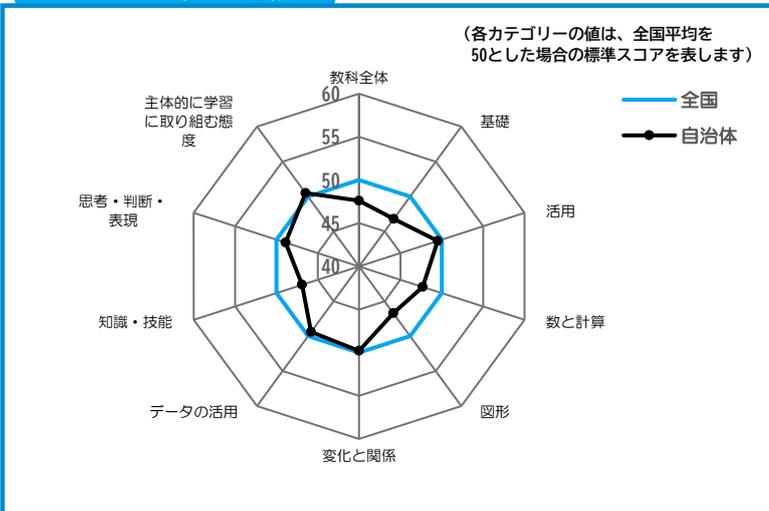
正答率一覧



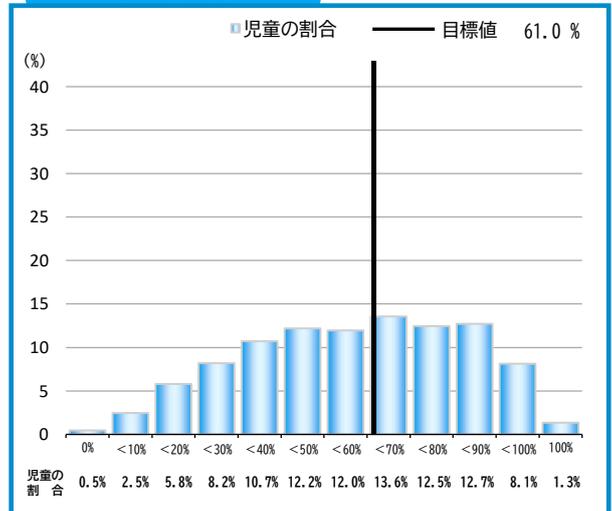
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が56.7%
- で、目標値を4.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「知識・
- 技能」が61.6%で、目標値を6.2ポイント
- 下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数と小数

大問2(1)

<ねらい> 小数を分数の形に直すことができる。

目標値 80.0% 正答率 58.2% 差 ▲ 21.8 ポイント

指導のポイント 誤答としては、分母と分子を逆にしたものなどが考えられる。分数と小数の指導においては、具体的な場面を通して、小数を分数でも表せることや、小数と分数を同じ数直線上に表せることについて理解させることが大切である。このような学習を通して、整数、小数、分数を同じ数として統合的に捉えられるように指導していくとよい。

小数のかけ算・わり算

大問15(3)

<ねらい> 厚さ5.4cmの辞書を、幅90cmの本棚に何冊並べることができるかを説明している。

目標値 30.0% 正答率 12.5% 差 ▲ 17.5 ポイント

指導のポイント 計算で結果を得たときに、それぞれの数が何を表すのかを理解できるようにさせる必要がある。本問の問題場面を表す式は、 $90 \div 5.4 = 16$ 余り 3.6 となる。この場合、本だなの2段目には辞書を16冊並べることができ、本だなの幅は3.6cm余ることになるが、商と余りの単位が違うことに気付かせるとよい。余りのある除法の場合は、商と余りの単位を考えさせることが大切である。その上で、問題場面に戻り、余りの処理の仕方を判断できるように指導したい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

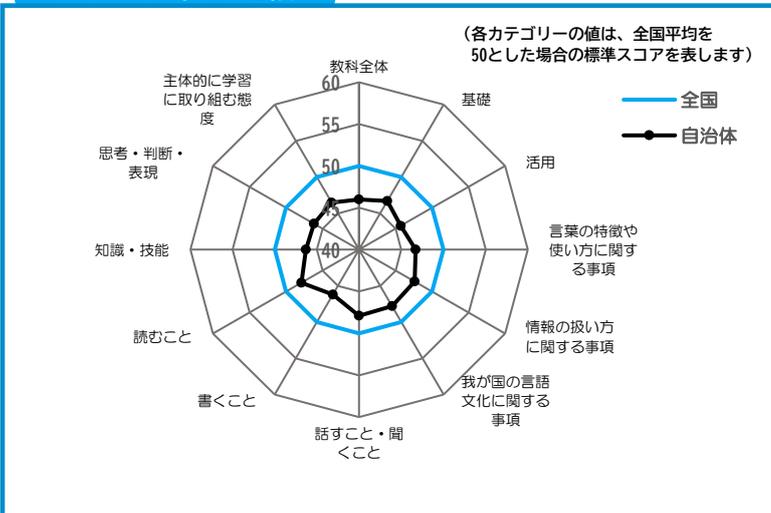
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.8	62.5	
基礎		68.5	65.0	
活用		57.8	57.7	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	58.4	
	情報の扱い方に関する事項	55.0	53.4	
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	36.4	
	話すこと・聞くこと	70.0	83.6	
観点別	書くこと	61.7	56.4	
	読むこと	66.7	68.3	
	知識・技能	62.7	55.9	
	思考・判断・表現	65.3	66.6	
主体的に学習に取り組む態度		58.0	57.9	

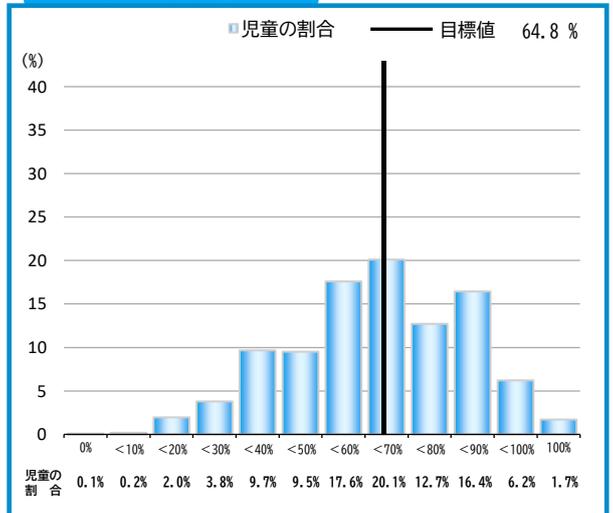
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が62.5%
- で、目標値を2.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が66.6%で、目標値を1.3ポイント上回った。一方、「知識・技能」が55.9%で、目標値を6.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 文と文との接続の関係を理解している。

目標値 50.0% 正答率 35.6% 差 ▲ 14.4 ポイント

指導のポイント 分かりやすい文章を書くためには、長い一文を二つの文に分けたり、文と文との接続を明確にしたりすることが考えられる。自分が書いた文章を基に、長い一文の解消と明確な接続関係を意識して推敲をさせるとよい。本問では、二つの文に分けることができる適切なところが分かれば難しくはない。また、一つの文章の中に、敬体と常体が混じらないように書く指導も、改めて行ってきたい。

文章を書く

大問7

<ねらい> 段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。

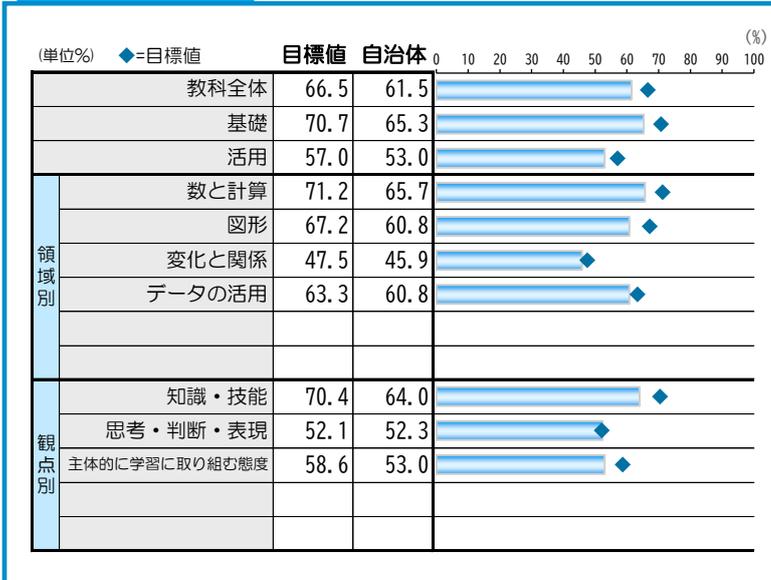
目標値 70.0% 正答率 57.4% 差 ▲ 12.6 ポイント

指導のポイント 文章を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。本問では、第一段落で、二つの案のうち、どちらに賛成か、及びその理由を書き、第二段落で、予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く。重要なのは、意見及びその理由と、反論及びそれに対する自分の考えを二つの段落に分けて書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

小6 算数

「知識・技能」の定着に課題が残る

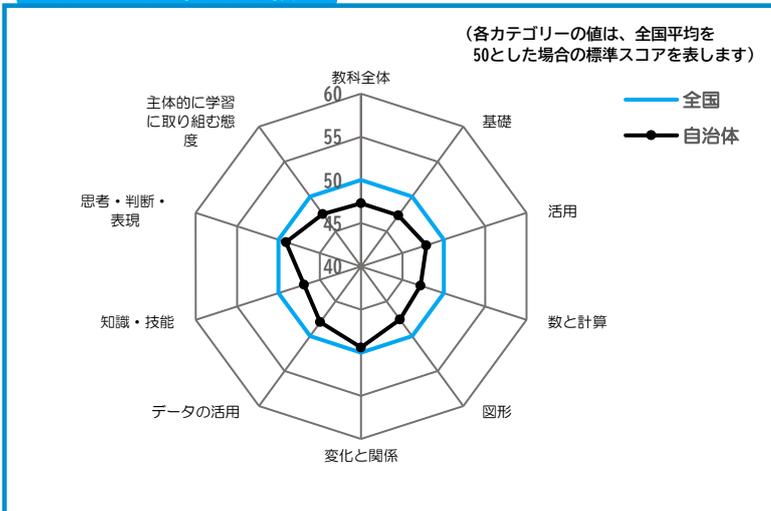
正答率一覧



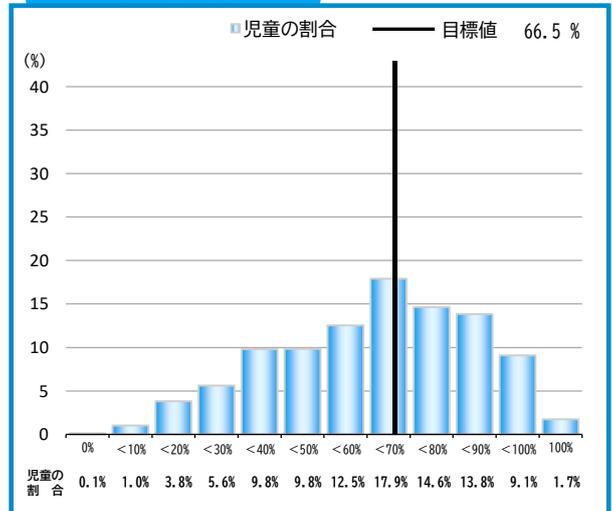
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が61.5%
- で、目標値を5.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が52.3%で、目標値を0.2ポイント上回った。一方、「知識・技能」が64.0%で、目標値を6.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。

目標値 50.0% 正答率 30.6% 差 ▲ 19.4 ポイント

指導のポイント 本問の数直線は、2つの数量が比例していることが前提となっている。まず、2本の線があることから2つの単位が必要になり、「L」と「kg」を用いることを確認させる。次に、対応している数量の関係を見つけさせる。ここでは、1Lと5/6kg、7/6Lと□kgが対応している。数直線上に表す場合は、1Lと7/6Lの大小関係にも着目して表す必要があることを指摘したい。数直線に表したならば、比例の関係を用いて立式すればよい。

対称な形

大問10(3)

<ねらい> 点対称な図形について理解し、作図することができる。

目標値 80.0% 正答率 61.1% 差 ▲ 18.9 ポイント

指導のポイント 点対称な図形の残り半分をかく問題だが、線対称と混同した誤答が見られた。線対称と点対称については、まずその意味を十分に理解させることが大切である。その上で、線対称であれば、対応する2つの点を結ぶ直線と対称の軸との関係、点対称であれば、対応する2つの点を結ぶ直線と対称の中心との関係を調べさせる活動を、授業に取り入れたい。いくつかの例を挙げて、点対称な図形と線対称な図形の特徴を比較しながら理解させるとよい。